

ドラムの魅力とドラム奏者のこだわりに関する研究 ～アナログとデジタルを比較評価して～

指導教員 須藤 正時 准教授

山田 浩平

1. 研究の背景と目的

現在の世の中では急速にデジタル化が進んでおり、カメラ、自動車、音楽、書籍など様々なものがその例としてあげられる。それは楽器の世界でも同じことが言える。ピアノやギター、ヴァイオリン、ドラムなど様々な楽器があるが、中でもギターはデジタルへの移行による普及率の増加が顕著に現れたものの一つである。エレキギターは、アコースティックギターより安価で手に入りやすく、アコースティックギターを弾くほどの技術がなくてもある程度の演奏ができるため、素人にも扱いやすいものであった。また、デジタルでしか表現できない形状や音色があり、その多様性から、エレキギターは広く普及することとなった。

一方、電子ドラムはそれまでよりも比較的安価で様々な音色を瞬時にだせ、扱いやすくなっているにも関わらず、あまり普及していない現状がある。

本研究では、アナログドラムと電子ドラムにおいて、一般的な電子ドラムの認知度やアナログドラムとの違いの調査、電子ドラムが普及していない要因を探ることを目的とする。

2. 評価方法

アナログドラムと電子ドラムの違いについて、聴き取り調査（以下、評価 A）とアンケート調査（以下、評価 B）の 2 種類の調査を行った。

2.1 【評価 A】 調査概要 普段ライブハウスなどにおいてバンド活動をしており、主にアナログドラムを使用しているドラム奏者 8 人、ドラムに関わる職業に就いているドラム奏者 2 人を対象に、電子ドラムに対するイメージの調査（表 1）を自由記述で回答してもらった。

2.2 【評価 B】 調査概要 ドラム演奏の経験のない者 12 人を対象に、まず電子ドラムの認知度に関する質問（表 2）に回答してもらった。その後、アナログドラム（図 1）、電子ドラム（図 2）を演奏している映像を観てもらい、外見や音色に違いを感じましたか。またそれはどんなところですか。という質問に自由記述で回答してもらった。また、それぞれの音色（表 3）からイメージする形容詞を語群（表 4）から選択してもらい、イメージスケール（図 3）上に分類した。

3. 結果と考察

3.1 【評価 A】 電子ドラムを使ったことがあるかと
A Study on Charm of the Drums and Commitment Drummer

表 1. 評価 A 質問項目

- ・電子ドラムを使ったことがありますか。またそれはどんな場面ですか。
- ・電子ドラムについてどんなイメージを持っていますか。
- ・アナログドラムと比較して、電子ドラムの優れている点、劣っている点はどこだと思いますか。
- ・電子ドラムの改善すべき点はどこだと思いますか。

表 2. 電子ドラムの認知度に関する質問項目

- ・電子ドラムを見たことがありますか。
- ・電子ドラムの音を聴いたことがありますか。
- ・電子ドラムをライブやコンサートで演奏しているのを観たことがありますか。（映像でも可）
- ・アナログドラム、電子ドラムについてどんな印象を持っていますか。
- ・アナログドラムと電子ドラムの映像を観てどこに違いを感じましたか。
- ・電子ドラムは魅力的だと感じましたか。
- ・なぜ今は十分に普及していないと思いますか。



図 1. アナログドラム¹⁾



図 2. 電子ドラム²⁾

いう質問に対して 10 人全員がはいと答えた。電子ドラムを使う場面においては、自宅で練習用に使う、楽器屋や友人知人宅で叩いたことがあるなどがあげられた。また、電子ドラムについて持っているイメージを問う質問では、練習用ドラム、機械的な音しか出ない、迫力がない、いろんな音が出せる、コンパクトなどの回答が得られた。ここから電子ドラムは練習用としてのイメージが根付いていることがわかった。

アナログドラムと比較して電子ドラムの優れている点として、様々な音色に切り替えられる、家でも演奏できる、アンプに繋がれば大きな音もだせる、ヘッドホンからドラムの音とクリックを同時に聴ける、ハイブリッドという形で多様な表現が可能、だれでもクリアないい音で叩ける、といった回答があり、多様な表現ができることについて言及したものが多くあげられた。

反対に劣っている点については、見た目が地味、アナログドラムのように味のある音が出せない、持ち運びが面倒、スティックの違いが表現されない、共鳴しない、とても弱い力で叩いた時に反応しない、いい意味での下手な演奏ができないなど、細やかな

音表現ができないという意見が多数であった。

これらのことから電子ドラムは多様な表現ができる一方で、練習用というイメージが根付いていることや、アナログドラムのような細やかな表現ができないことが、使われない理由として推測できる。

3.2 【評価B】 12人中8人が電子ドラムを見たことがあり、5人が音を聴いたことがあった。また、映像を含めライブやコンサートで見たことがあるかという質問に対しては3人がはいと答え、そのうち2人がネット、1人がTVで見たということだった。

アナログドラムと電子ドラムの映像を観てどこに違いを感じたかという質問に対して、アナログドラムの方が見た目に重厚感がありシンバルの色が派手、音は響きや躍動感、重厚感、強弱の表現、迫力があるなどがあげられ、電子ドラムの方は、人工っぽい、音がきれいな、いろんな表現ができるなどの回答を得られた。

電子ドラムは魅力的に感じたかという質問には、現代的できれいな音、様々な音色や表現ができ、ドラムとはまた別の楽器になりうるというものがあげられた。ここでも電子ドラムは多様な表現ができるという回答が多く、アナログドラムの方は、音に響きや迫力は強く感じられた。

なぜ普及しないと思うかという質問の回答では、人は生の音を感じたい、本物志向が強い、ドラム本来の音が出ない、電子ドラムを使わなくてもパソコンでもできそう、たたき心地、見た目、力強さが違う、他の楽器と一緒に演奏するから表現の多様性は足りない、リアル感がないなどがあげられた。

アナログドラムと電子ドラムの印象評価の結果は図4に示した。この図より、電子ドラムはカッコいい、華やか、スピード感の項目でアナログドラムより低い評価となった。さらに映像視聴後の印象評価ではすべての回答者が視聴前より総合点が高くなった。

イメージスケールでの調査結果を図5に示す。アナログドラムがワイルドを中心にHARDでWARMなイメージに分類されたのに対して、電子ドラムはそれぞれの音色が様々な場所に分類されており、電子ドラムの多様な音色によって豊富な表現ができることがわかった。

4. 結論

評価A、評価Bの結果より、一般的な電子ドラムの認知度は低く、練習用の楽器というイメージが根付いているが、様々な音色を出すことによって、アナログドラムにはできない表現によって多種多様な印象を与えることがわかった。しかし、アナログドラムに置き換わる楽器としては、まだまだ細やかな表現が再現しきれていない部分があることが普及していない現状の要因であると考えられる。

表3. それぞれの音色と分類

アナログドラム	○
電子ドラム	●
1. LA METAL	◐
2. BURNIN'	◑
3. DJEMBE	○
4. VISION	◒
5. HARD N' BASS	◓
6. HIPHOP	◔
7. 90s HOUSE	◕

表4. イメージスケール語群

A. 情熱的な	J. のどかな
B. 力強い	K. 情緒的な
C. どっしりした	L. しゃれた
D. 荘厳な	M. スポーティな
E. モダンな	N. 生き生きした
F. 渋い	O. 爽やかな
G. クラシックな	P. 淡い
H. 豪華な	Q. あどけない
I. 愉快的な	

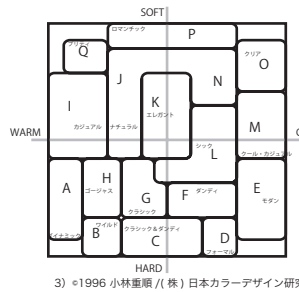


図3. イメージスケール

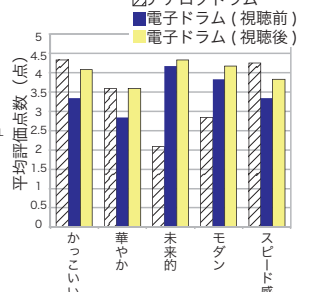


図4. 印象評価統計

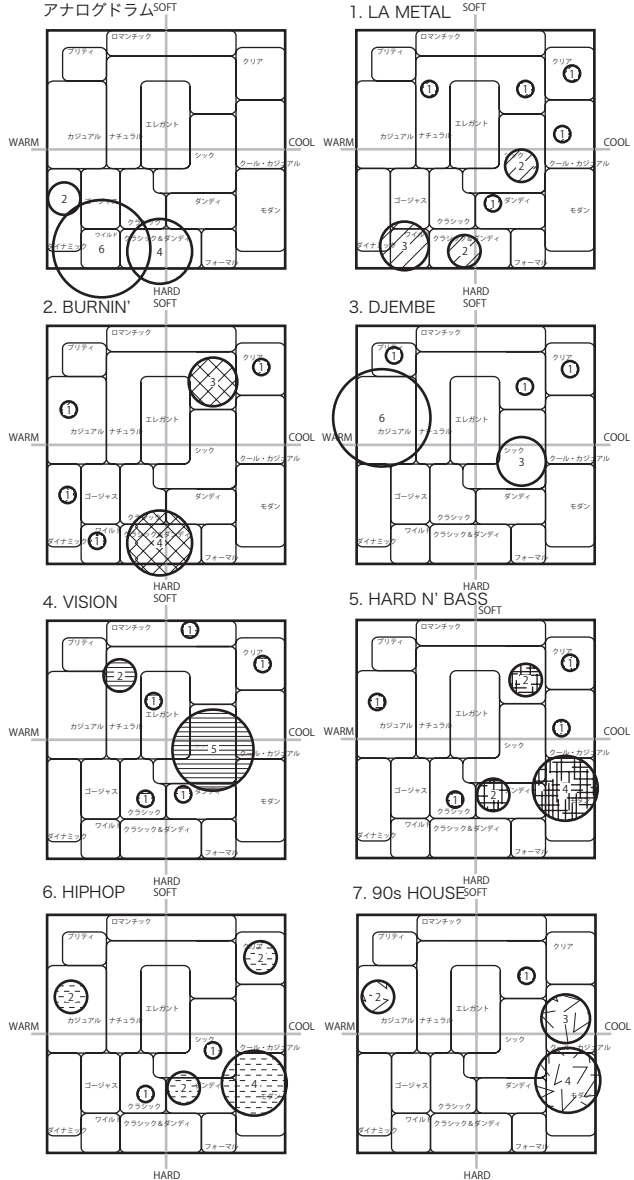


図5. それぞれの音色の分布 *図の中の数字は人数(人)

【参考文献】
 1) 『パール楽器製造株式会社』 <http://www.pearlgakki.com/index.php>
 2) 『Roland music navi』 <http://mnavi.roland.jp>
 3) 小林重順, 日本カラーデザイン研究所: カラーリスト～色彩心理ハンドブック～